

思川開発事業の概要

- 思川は利根川流域渡良瀬川の支流で栃木県の南西部足尾東山地に水源を発し、同じく行川、黒川、大芦川を合流し南流して渡良瀬遊水池で渡良瀬川に合流する流路77.8kmの1級河川です。思川開発事業は、利根川総合開発の一環として、思川の支流の南摩川にダムを建設して洪水調節を行うとともに、他の支川黒川、大芦川に取水施設を設け、延長10 kmの山岳導水路を建設してダムに水を運び貯留水の80%をまかなう。

報告者:伊藤武晴 思川開発事業を考える流域の会 事務局長
〒323-0807 栃木県小山市城東 2-10-22
電話 0285-23-8505

1

事業の中核「南摩ダム」諸元

- 建設地: 利根川流域思川支流-南摩川
- 型式: ロックフィルダム
- 流域:
 - 南摩川 12.4 Km² 直接流域<ダム建設地>
 - 黒川 49.5 Km² 間接流域(取水口)
<ダムへ送水最大 8m³/S>
 - 大芦川 77.4 Km² 間接流域(取水口)
<ダムへ送水最大20m³/S>
- 位置: 栃木県 鹿沼市 上南摩町地先
- 堤高: 86.5m
- 総貯水量: 約五千万m³
- 有効貯水量: 約五千万m³

2

事業の目的

1. 洪水調節

南摩ダム地点の計画高水流量130m³/sのうち125m³/sの洪水調節を行うことにより、南摩ダム下流の思川沿川地域および利根川本川の中・下流地域の洪水被害の軽減を図る、としている。

2. 既得取水の安定化と河川環境の保全のための流量の確保、(不特定用水の確保)

南摩川、黒川、思川および利根川沿川の既得用水の安定化を図るとともに、河川環境の保全等のために必要な流量を確保し、異常渇水時の補給を行う、としている。

3. 新規利水の開発

栃木県、小山市、古河市、総和町、五霞町、埼玉県、および北千葉広域水道企業団の水道用水として新たに最大3.202m³/Sの取水を可能とします、としている。

3

事業の問題点

1. 洪水調節:

ダムが建設される南摩川は極小河川で、ダム地点の流域面積はわずか12.4 Km²で、思川下流基準地点の洪水軽減効果量は約1.8%でしかなく、費用対効果の点からきわめて不合理な事業である。

2. 不特定用水の確保:

不明瞭な事業目的であり、国交省は既得用水を既得水利権と説明しているが、水利権者の新たな受益事業には受益者負担が課せられるはずである。

3. 新規利水の開発:

過去の過剰な利水開発により、ほとんどの水道事業は水あまり状況にあり、新規利水の開発はもはや必要ない。

4